



申12号

「エネルギー部門の組織再編について」 11月15日開催

に関する申し入れ **団体交渉を行う!**①

JR東労組は、9月15日に会社から「エネルギー部門の組織再編について」の提案を受けました。信濃川発電所での不正取水問題で信頼を失墜させ、信頼回復とコンプライアンスの遵守とリスク管理のために組織されたエネルギー管理センター、信濃川発電所業務改善推進部、エネルギー戦略部をエネルギー企画部に統合し、組織のスリム化・業務の簡素化を実施するものです。特殊性・専門性の高い発給電職場において、安全とコンプライアンスを守る職場をつくり出すために議論を行ってきました。

第1項 「エネルギー部門の組織再編」を実施する目的を明らかにすること。 ■:組合 ●:会社

- | | |
|----------------------|--|
| ■ 組織再編の目的は何か | ● 安全と信頼をベースに、エネルギー3E 向上を戦略的かつ効率的に行い、ゼロカーボンにギアアップさせる |
| ■ 戦略的かつ効率的な業務の推進とは何か | ● 3つの組織を一元化し、戦略を練るチーム、オペレーションチームを分ける。また、本社・現業機関の2層にすることで現場の発意に基づいてスピード感をもって業務を遂行する |
| ■ 事務業務の取り扱いに変更はあるのか | ● NASBI 入力、部外研修の手続きを現業機関で行うようになる |

確認

- ★ 安全・信頼をベースに組織再編を行う。不適切事象を風化させてはならない
- ★ 信濃川地域共創統括室の運営、中央給電指令、運転当直体制、現業フレックス勤務体制に変更はない

第2項 信濃川水力発電所不正取水問題に対する現状認識を明らかにすること。また、今後の再発・風化防止対策と地方共創などの地域との関わりについての考えを明らかにすること。

- | | |
|--|--|
| ■ 信濃川発電所不正取水に関する会社としての対策は、どのように実施してきたのか | ● ①社員に対する意識面の対策について
⇒河川法などのチェック、教育が不足している
②仕組み・制度の改善について
⇒超過取水対策、システム化などのハード対策が不十分だった
③透明性の高い職場風土の醸成について
⇒発電所の位置付けが不十分だった。地域や経営にも目が届く社内体制など |
| ■ 信濃川発電所不正取水は、会社として一定程度解決した認識から組織再編を行うということか | ● 不適切事象については、一定の定着が図れたと考えている。 <u>風化防止に努め、ブラッシュアップしていく</u> |
| ■ 不正取水から12年が経過した現在、これまで信頼回復に向けて取り組んできた組合員・社員に対して会社は、どのように評価しているのか | ● <u>この間、不適切事象以降も、社員一丸となって信頼回復に取り組んでいただいた。よくやってくれた。</u> 2025年には、水利権の更新があるため、今後も継続して取り組んでいく |
| ■ 線下補償業務など、地域との信頼関係が重要である。組織再編によって担当者が変更になるなど、理解は得られるのか。また、説明会など実施するのか | ● 地権者との連絡は行う。信頼回復に向けては、これまでの反省に踏まえて継続して取り組む |

確認

- ★ 信濃川発電所不正取水問題のような同種事象は、2度と繰り返さない
- ★ 不正取水問題の反省に踏まえ、継続して地域の信頼回復と風化防止に取り組む

その2に続く